
プロジェクト **連結及び持分法**

項目 **第 116 回 ASAF 対応専門委員会で聞かれた意見**

本資料の目的

1. 本資料は、第 116 回 ASAF 対応専門委員会（2021 年 8 月 17 日開催）において聞かれた主な意見をまとめたものである。

ショート・ペーパーの文案について

ハイブリッド・アプローチの適用について

2. 一行連結と測定基礎という二律背反の関係にあるものをハイブリッドにするとしながら、IFRS 第 9 号の投資と比較した場合、より連結に近い会計処理として正当化しているが、より連結に近いとする根拠が明確でないを考える。ただし、本意見は、今回のペーパーの意図を考慮すれば、今回のペーパーの修正を求めるものではなく、長期的な検討の素材としていただきたい。
3. ハイブリッド・アプローチであることの主張は、単純に一行連結と測定基礎の 2 つのアプローチの要素を含んでいることを明らかにするという意図であり、特にどちらを主として扱うといった軽重は問わないという表現かを確認したい。

投資者と関連会社又は共同支配企業との間の債権債務の相殺消去について

4. 大手会計事務所が提供するガイダンスや実務においては、投資者と関連会社又は共同支配企業との間の債権債務は、グループ外の債権債務であるため消去すべきでないとするのが一般的であるという認識である。消去することは理論的とは理解し、ペーパーの修正を求める意図はないが、個人的には、消去すべきとする事務局提案に違和感がある旨をコメントしたい。

以 上